



「わたしどもの信仰を増してください」とは、どういう願いでしょうか。これには前段があります。

「信仰を増してください」

ルカによる福音書17・5〜10

司祭 ヨハネ 角瀬 克己

それに対するイエス様の返答は、「からし種」一粒ほどの信仰があれば大きな業をなし得るという内容です。

つまり、イエス様は、人が罪を犯すような種を蒔いてはならないこと、人が罪を犯したら戒めること、自分に対して罪を犯した者を赦すこと、この三つを勧められました。

もともと「他人の罪」に対して無関心な人は少ないでしょう。人のスカンダルやうわさ話というのには聞きたくなるものです。

教会では「罪」と「赦し」について語られます。しかしその場合、頭の中にあるのは大抵の場合、自分の罪や自分が赦されることではないでしょうか。

しかし何故少ないのでしょうか。それは「信仰」と言うことについての、ある誤解があるのではないのでしょうか。「信仰」という言葉が使われるとき、礼拝に出席すること、聖書を読むことなどが連想されますが、これらは私たちが神様と向かい合っていることではないでしょうか。

しかしこの福音書を通して、イエス様が伝えようとしていたことは、言うなればそれとは逆の方向です。つまり、私たちが通して神様が働かれるということ、神様は私たちが通してお働きになるということ、

「主よ、あなたの平和の器にしてください」 (高松聖ヤコブ教会牧師・岡山聖オーガスチン教会管理牧師)

私たちが、信仰という言葉で聞くと、とかく「私が神様を信じる」という「自分から神様へ」の方向で捉えがちですが、このように聖書に於いてはこれとは反対の「神様がわたしを用いられる」「神様が私を通して働かれる」という「神様から私へ」という方向も含まれている、ということを忘れてはならないと思ふのです。

ではなく、すべきことを完全に成し遂げて「なすべきことを行ったまでです」と謙虚になれと教えられたのです。

ただかばかりの信仰があれば、大きな業が出来るかと語られています。ルカ福音書では「桑の木」ですが、マタイ福音書では「山をも動かす」となっています。

このように、神様は、私たちを通して働かれるのだ、ということを知らなければならぬと仰っているのです。

日本聖公会 神戸教区報 神のおとずれ

2013年 10月号 発行所 神戸教区事務所 TEL 078(351)5469 FAX 078(382)1095 http://www.nskk.org/kobe/ 発行責任者 司祭 芳我 秀一 印刷所 文明堂印刷所

「宣教の基盤となる 教会ホール・牧師館建築に向けて」

ジョセフィン 加藤 正 恵

昨年の三月に伊神司祭が退職され、定住牧師がおられなくなりました。

残った信徒は、岡山の教会を守り、継承しなければなりません。み言葉の礼拝の司式、週報作りなど、慣れないことばかりでしたが、信徒がひとつになつてやってきました。

今まで毎週守られた聖餐式は、第二と第四の日曜日になりました。また、み言葉の礼拝も信徒みなどで集う大切な礼拝となりました。

もし岡山の教会が、私たちの世代で終わるのなら、何もしないで、総工費四千万円の建築など、初めから無理とあきらめたほうが良かったです。

しかし、岡山聖オーガスチン教会を未来につなぎ、宣教の基盤とするために、今、行動しないと遅いのです。

定住牧師をお迎えするため、また信徒の交わりを深めるため、未来の信徒のために、老

朽化した建物の代わりに新しい牧師館・教会ホールが必要なのです。

どうぞ皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。建築という未経験の領域に関わったことで、私たちは多くのことを学びました。

設計業者選定の際は最後まで悩み、祈りました。そうです。私たちは神様に祈ることが許されているのです。自分の判断は迷っても、神様の導きを確信し、いっそう祈りました。教区内の皆様にも共に祈ってくださいることをお願いしてもいいでしょうか？

神様が共にいて下さり、導いて下さいますよう心から祈りたいします。

(岡山聖オーガスチン教会信徒)



2013年神戸教区「召命黙想会」に参加して

神戸教区神学生 テモテ 遠藤 洋介

私は今回、神学生として召命黙想会に参加させていただきました。

今年はカトリック・イエズス会の清水 弘神父様を講師として、8月27日(火)〜29日(木)、神戸市須磨区の聖ヨハネ病院修道会で、二泊三日の黙想会が行われました。参加者は11名で、よい黙想の時を過ごすことができました。

プログラムの内容は、黙想

講話、聖餐式、夕の祈りなどの、実にシンプルなプログラムでした。黙想講話の内容は、サムエル記上第3章9節の『主よ、お話ください。』をテーマに【召命】とは何かを聞かせていただきました。

初めに、カトリック、聖公会、プロテスタントの違い、カトリックにおいて重要とされている『沈黙の祈り』とは何かなどを聞き、霊操指導をしていただきました。

私は清水神父様の講話の中で、エゼキエル書3章を引用して話された、食べ物を食べ、それが身体の一部となるように、御言葉も同じように、くりかえし読み、味わい、自分の霊の一部にする、という話が、とても印象深く残りました。

また、黙想生活の中で、沈黙でいることの難しさ、日々の礼拝での黙想の大切さを感じました。

イエス様は苦しめられている時にこそ、足を止め、深く、そして切に祈っておられますが、私は、普段の礼拝の中でそれができていたのかということを考えていました。苦しい時や焦っている時にこそ礼拝に集中できていないのではないだろうか。

また、「人間は弱っている時にこそ、神様と会う。その時にこそ召命を受ける」と話され、私も苦しい時、弱っている時にこそ、沈黙の中の祈りを大切にしようと思えました。このことは、私のこれからの信仰生活において、大変勉強になるお話でした。

召命黙想会は、3日間の大変短い時間でしたが、内容の大変詰まった有意義な時間をしました。普段、こうして時間を取り、黙想をすることはできませんでしたが、これからは定期的に時間を作り、ゆっくりと神さまの声に耳を傾けようと思います。

(ウィリアムス神学館在学)



第2回日本聖公会女性会議報告

テレジア 木本 慈子



日本聖公会女性の課題に関する担当者及び正義と平和委員会ジェンダープロジェクト主催による表題の会議が、8月19日(月)～21日(水)、京都教区センター、ザ・パレスサイドホテルにて開催され、神戸教区から中原司祭、山本あさ子さん(徳山聖マリア教会)、私の3人で参加いたしました。11教区から2～3名の派遣者(司祭、男性信徒を含めて)、主教会、正義と平和委員会、人権担当、管区総主事、宣教

主事、ジェンダープロジェクト、女性デスクその他の機関などから総勢60余名のメンバー構成で、主題の「わたしたち一人ひとりが宣教の担い手です。」対等なパートナーシップのもとに協働していくには?」について、議論が交わされました。

第一日目は、開会礼拝後、①ジェンダープロジェクト10年の歩みの紹介。

②意思決定機関への女性の参画について。

③女性の司祭実現に伴うガイドラインについて

などの発題がなされ、詳細な報告と説明がありました。

第二日目は、バイブルシェアリング、分かち合い、前日の発題に関して、一度のグループ討議(7グループで)、黙想の時間、全体会、教区の話し合いが行なわれました。

第三日目は、朝の祈りの後、三度目のグループ討議、全体会、閉会聖餐式があり、幕を閉じました。

女性の抱える課題―差別、ハラスメント、DV、意思決定機関への女性の参画の少な

さ、女性の司祭実現より16年経つのに依然として少数であること、現在働いている女性の司祭が体験する困難、制約などを各教区の地域性、伝統、特色の違い、温度差を乗り越えての活発な意見交換、数値目標、具体的な提言がなされました。このような女性に関する課題を主教、司祭、執事、聖職候補生、男性信徒とともに真剣に議論できることは、とても意義深く感じると同時に、何よりも女性自身から意識改革を促していくことが大切なのではないかと痛感し、日ごろの自分自身を反省させられました。

同行の山本さんは、今回初めて女性の司祭方と交流ができたこと、聖餐式の共同司式に堂々と臨んでいらっしやる姿にも大変感銘を受けたそうです。ある教区の男性の司祭のお話で、女性の司祭がいらっしやることによって、豊かな牧会ができていくとの発言も印象的でしたし、閉会聖餐式での女性の司祭のお説教に涙しておられた女性信徒の姿に、女性の司祭の賜物の一面にふれたおもいでした。

学びの場に参加させていただきましたことを深く感謝いたします。

(広島復活教会信徒)

☆パイプオルガン・ニユース

パイプオルガン 搬入作業!!

8月初旬、英国を出航したパイプオルガンは、9月7日(土)神戸港に無事到着。関税手続きを終えて、11日(水)午前9時から大聖堂への搬入作業が行われました。



青年など、約30名が搬入手伝いに集まりました

予定していた2時間より早く、1時間半で作業は終了。ご協力いただいた作業ボランティアの皆さん、ありがとうございました!

オルガンの搬入作業を手伝って

グレース 藤井まりあ

はるばる海を越えてやってきたコンテナは、引っ越しのトラックぐらゐ大きくて、きっと教会まで運ばれてくる間に、トラックとすれ違った人たちは、まさかこの中身がオルガンだなんて思わなかったのではないのでしょうか。オルガンの一体どの部分なのかわからずに運んでいましたが、パイプらしき物の重さが一つつ違っていたので、「パイプの大きさが音が調節されるんだなあ」と感じました。

オルガンが完成して、「私、このオルガン運んだんだよ!」と誇れる日を楽しみにしています。

(神戸聖ヨハネ教会信徒)

※以上、パイプオルガン会報誌「Angel's Voice」(創刊号)から転載。

公 示

日本聖公会神戸教区 第81(定期)教区会を招集します。

2013年9月12日

日本聖公会神戸教区
教区会議長
主教 アンデレ 中村 豊

記

日 時：2013年11月23日(土)
午前8時から午後5時まで
場 所：神戸聖ミカエル大聖堂

書記を下記のように任命します。

司祭 シモン 原田 佳城
司祭 ペテロ 中原 康貴

11月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2013年11月7日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 芳我 秀一

11月の記念逝去教役者

- 1日 司 祭 レイモンド・C・クリストファー
- 3日 司 祭 山本 早太
- 4日 司 祭 パウロ 山辺 久吉
- 8日 宣教師 ヴァイオレット・ハイド
- 9日 司 祭 アンデレ 児玉 正
- 13日 司 祭 モーセ 木俣 茂世
- 17日 伝道師 ルデア 内田 歌子
- 17日 司 祭 ウィリアム・H・ハンコック
- 18日 伝道師 チッポラ 末好 信子
- 19日 司 祭 ヨハネ 側垣 正己
- 20日 司 祭 パウロ 秋田 哲三
- 22日 伝道師 塩原 以満
- 28日 宣教師 ジャネット・マッキー
- 30日 宣教師 エイミ・C・ボサンケット

逝去年月日不明の方々も祈ります。

10月27日(日) 社会事業の日

この主日には社会事業のために祈りを献げ、当日の信施金は管区を通して、社会事業の活動のためにお献げください。



鳩だより 《敬称略》

ご 逝 去

8月21日(水)
マリヤ 二反田ヒサ子 (85歳)

富岡キリスト教会

8月26日(月)
グレゴリー 徳増 智 (88歳)

倉敷聖クリストファー教会

8月30日(金)

若槻 修 (30歳)

松江基督教会

教 籍 異 動

8月26日(月)

洗礼者ヨハネ 梅村 俊輔

北関東教区大宮聖愛教会より

広島復活教会へ

山陰伝道区

◎鳥取聖ルカ教会

9月22日(日) 午後2時から、第4回目の「ほかほか広場」を開催した。

「ほかほか広場」とは、教会の会館を会場にして、地域の高齢者の方を対象に、信徒が会場作りや接待の奉仕を行い、そして歌や高齢者向けの体操の指導が出来る方は、その賜物を生かして、交わり

の場を提供するものです。今回は、信徒7名が奉仕をして、高齢者の方々8名、そして礼拝支援に來ている牧師と聖職候補生が約一時間半の楽しい交わりの時を持ちました。(写真下)



収穫感謝献金のお願い

2013年・2014年の両年度は、岡山聖オーガスチン教会のために600万円(2年間で)を目標に献げます。

同教会は、バリアフリー化された牧師館・会館建築費用4,000万円の内の補助として申請しています。皆様のご理解とご協力をお願いします。祈りのうちにお献げください。11月17日(日)までに教会でお献げくださり、教会ごとにまとめて教区会でお献げください。

— お詫びと訂正 —

神のおとずれ9月号巻頭言執筆者、信岡章人司祭の洗礼名がクレメンスとなっておりましたが、正しくはクレメントです。また10月教区関係教役者逝去者記念聖餐式の説教者が、ヨハネ角瀬克己司祭となっておりましたが、正しくはペテロパウロ柳本博人司祭です。お詫びして訂正させていただきます。